



令和7年3月6日

立川市議会

議長 福島正美 殿

立川市議会文教委員会

委員長 瀬 順 弘

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日

令和6年10月29日（火）から31日（木）

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
大阪府枚方市	インクルーシブ教育について
大阪府守口市	さくら小学校について
兵庫県姫路市	小中一貫教育について

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

文教委員会行政視察報告書

【日時】2024年（令和6年）10月29日（火） 13:30～15:30

【視察先】大阪府枚方市（市役所：大阪府枚方市大垣内町2丁目1番20号）

【視察項目】インクルーシブ教育について

【参加委員】瀬順弘（委員長）、永元香子（副委員長）、中山ひとみ、門倉正子、高畠奈美、原ゆき

【対応者】枚方市教育委員会事務局学校教育部支援教育課 課長

◆枚方市基礎データ（2024・令和6年度）

学校数（小学校）44校（中学校）19校

支援学級数（小学校）298（中学校）97

支援学級在籍数（小学校）1860（中学校）543

通級指導教室数（小学校）22校25学級（中学校）19校21学級

通級指導教室利用人数（小学校）383人（中学校）173人

支援学級種別（小学校）弱視1、難聴2、知的119、肢体不自由23、病弱・身体虚弱7、自閉症・情緒障害146（中学校）弱視0、難聴3、知的38、肢体不自由6、病弱・身体虚弱4、自閉症・情緒障害46

◆子どもの特性に応じた指導・支援を

第1段階 「基礎的環境整備の徹底」

通常の学級において、すべての子どもを対象に質の高い指導を実施。

→ユニバーサルデザイン（共に学ぶ原点）の観点を取り入れた授業づくり等

第2段階 「適切な配慮の提供（合理的な配慮等）」

個別の配慮や補足的な支援を追加。（教員ごとの対応）

→個別の教育支援計画の作成を検討

第3段階 「適切な配慮の提供（合理的な配慮等）」

個別的な支援を追加。（学校体制としての対応）

→個別の教育支援計画の作成に努める

第4段階 「適切な配慮の提供（通級指導教室の利用等）」

個別の教育支援計画を活用し、通常の学級担任と通級指導教室担当の連携。

第5段階 「適切な配慮の提供（特別な教育課程の編成等）」

支援学級に在籍。

→個別の教育支援計画を活用し、支援学級だけでなく、通常の学級での取り組みの充実が求められる。

◆ 枚方市の通級指導教室について

（対象）

通常の学級に在籍している児童・生徒で、通常の学級での学習に概ね参加できるが、一部特別な指導を必要とするもの。

難聴以外の支援学級に在籍し、聴覚に障害のある児童・生徒のみ、支援学級在籍児童・生徒でも通級の対象。

（指導形態）

- ・週に1時間から8時間、指導を受ける。
- ・個別あるいは数人程度のグループ指導。
- ・発達障害等のある児童・生徒の指導にも取り組んでいる。
- ・指導しているのは、現職の教員で、言語の指導等に堪能なものがあっている。

◆ 枚方市の特別支援学級について

（支援学級概要）

1. 支援学級は1年ごとに設置するかどうか決める単年度設置の学級。
2. 児童・生徒一人一人への加配はなし。
- 3.1 学級、児童・生徒8名までは1名の支援学級担任を配置。
4. 障害のある児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「特別の教育課程」を編成。
5. 教科の学習においては、当該学年や下学年の教科の目標や内容、知的障害特別支援学校の教科の目標として設定している。
6. 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための「自立活動」を必ず行なっている。
7. 原則として、授業時数は週の半分以上を目安。

◆教育委員会の学校を支援する取り組み

H17 年度～・専門家の学校への派遣 ・教育相談窓口の設置（教育文化センター）

H27 年度～・巡回相談員が市内幼稚園を定期的に巡回し、保護者に発達相談を実施

→発達障害等に関する専門的な知識・技能を有する専門家を市立小中学校に派遣し、発達障害等があり教育的支援を必要とする児童生徒への指導について、教職員に直接指導・助言

H28 年度～・全小中学校に配置する支援教育コーディネーターへ、1校あたり平均週10時間講師を1名配置（支援教育コーディネーター支援充実事業）

※支援教育コーディネーターの役割・・・保護者や関係機関との連携・協力、校内委員会（ケース会議等）の企画・運営、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成及び活用、クラスに入り込んでの現状把握等

◆議論の概要

・通級指導教室

枚方市は歴史的にも、障害のある子どもたちが通常の学級とともに学ぶことを大切にしてきた。枚方市では国の制度化に先立ち通級指導教室を充実させたことにより、その理念を体現してきた。

一方、通級指導教室は本来通常の学級で「ともに学ぶ」ため障害による困難を克服する場であるが、単に教科学習の補充しか行なわれていない場合もあるのではないか。

・市独自の少人数学級編成（ダブルカウント）

枚方市の特徴とも言える取り組みであり、子ども、保護者、教員それぞれにとって、支援学級在籍の児童生徒も通常の学級の一員であるという意識醸成に大きく貢献している。

・学びの場の選択

専門的な立場の方がすべての対象幼児の見立てを行なっている自治体もある一方、枚方市ではすべての対象幼児に実施しているわけではない。枚方市では、保護者の意向を最大限尊重し、就学先を決定しているが、保護者がより納得して就学先を選択できるよう、専門家等の意見を踏まえた情報提供を行えるよう検討が必要。

◆質疑

Q 障がいのある子どもも通常の学級で多くの時間過ごすことについて、子どもや保護者への説明をどのように行い、子ども真ん中の考え方をどのように広めてきたのか。

A 子ども理解をまず現場がすること、そのことを子ども達へも伝えていくこと。そうすればその思いが保護者にも伝播し、社会全体がインクルーシブになっていくと考えている。

Q 通常の学級で行っているユニバーサルデザインにはどのような例があるのか。

A 基本的には学級の状況に合わせて授業をメイキングしている。子どもたちの様子に合わせて柔軟に行う。ユニバーサルの視点としての例では、意識が散漫しないよう黒板前の掲示を必要最低限のものにし

たり、色覚の子にも分かりやすいユニバーサルチョークの使用、机椅子の足底にテニスボールをつけて床との摩擦による騒音を低減したりすることなどがある。

Q 文部科学省が4月27日に出した「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」という一つの通知で、支援学級の児童・生徒は「授業時数の半分以上」を支援学級で学ぶこと、という内容が示され、これを受け大阪弁護士会は特別支援学級に在籍する児童生徒が通常学級で授業を受ける時間数を制限する同通知を撤回するよう、文部科学相に勧告したという報道があった。その後の現場での動きはどうであったのか？

A 人権救済がなされ、文部科学省の通知は撤回された。現場でも、「ともに学び、ともに育つ」理念実現のため子どもたちと向き合うことは変わらず取り組んできた。

◆所感

枚方市のインクルーシブ教育に関する考え方や支援の内容を通して、すべての子どもに個別最適で協働的な支援とはどのようなものか、具体的に知ることができた。

まずは寄り添い支援を大切にすること。本人や保護者がどうしたいかを丁寧に聞きとり、決して市教委がその子の学ぶ場を判断せず本人の意思を最大限尊重するということがインクルーシブ教育の大事な一歩であると感じた。そして一人ひとりに合わせた個別の教育支援計画の作成を行い、実際に原学級と支援学級での教科学習と自立学習を本人の状況に合わせて組み立てていく。何よりも、「ともに学び、ともに育つ」理念が全市的に定着しており、子どもと伴走していく市立学校教職員や市教委担当課の職員の熱意が枚方市のインクルーシブ教育を支えている。

「地域の子は地域で育てる」という視点が希薄になりつつある昨今、インクルーシブ教育の理念を実現するには、地域やまち全体で子どもを育てていくという視点を周りの大人が共有していくことが肝要で、これについてはまちづくりの取り組みの一環として市全域で、行政としては全庁的に取り組む必要があるとの気付きも得た。

通級指導学級での学びは、単に教科学習の補充ではなく、「ともに学ぶ」ために困り感を克服する活動が基本として重要視されるべきであるということや、枚方市独自の制度「ダブルカウント」を採用することにより支援学級在籍の児童生徒も通常の学級の一員であるという意識醸成に大きく貢献すること、特別支援教育コーディネーターの専門性を高め各担任や保護者との連携を密に行い子どもたちへの適切な支援に繋げることなど、本視察で得た知見も活用し、立川市のインクルーシブ教育の理念実現に向け堅実な提言ができるよう研鑽を重ねていきたい。

文教委員会 視察報告書

【日程】 2日目 2024年（令和6年）10月30日（水）10～12時

【視察先】 大阪府守口市 **【視察項目】** さくら小学校について

【参加委員】 瀬 順弘（委員長）永元 香子（副委員長）原 ゆき

高畠 奈美 門倉 正子 中山 ひと美

【対応】 守口市立さくら小学校校長 他

【守口市の概要】

・面積：12.71 km²・人口：約14万1千人・世帯：約7万世帯・市の中に7つの駅があり、大手企業メーカーの企業城下町として発展を遂げた。子育て世代に対して平成29年度から所得制限なしで全ての子ども達に幼児教育・保育の無償化を実現。今年度からは給食費無償化。統廃合をしながら学校施設建て替えを進めている。

【建物概要】

敷地面積：16,256 m² 構造：鉄筋コンクリート造、一部木造 規模：地上3階

建築面積：5,616 m² 延床面積：10,316 m²

発注者：守口市 設計整備：株式会社昭和設計 施行：南海辰村建設株式会社

【守口市立さくら小学校とは】

三郷小学校、橋波小が統廃合し、全国で初めて校舎内に大阪府警察の交番が入居した小学校。1階は特別教室周りに、掲示スペースを備えた教科ラボを設置。2階は普通教室と共用部を一体化できるつくり。地域ボランティアの拠点となるボランティア室も併設。学校と地域を見守る「くすのき」を保存。

学校中央に配置したメディアホールとメディアライブラリーを設け、メディアライブラリーは読み聞かせコーナーや一体利用できるPCスペース等がある。メディアホールは大階段としての機能だけではなく、正面に大型電子黒板を設け、様々な活動スタイルに使用できるダイナミックなつくりとなっている。

【主な質問事項】

1. **建築・運営費**→・設計工期 平成29年3月16日～平成30年3月26日
・設計料 110,133,000円 ・建設工期令和元年6月28日～令和3年3月10日
工事費 3,704,800,000円 約40億円
2. **統廃合したメリット・デメリット**→デメリット：特になし。メリット：統廃合して活動しやすくなった。現在581名在籍。明治27年からの校舎が老朽化していたので校舎建て替えで新しくなり使いやすくなった。

3.日本で初めて敷地内に交番を設置する小学校。地域住民や子ども達からはどのような反応があったか→西門に警察官が常時立っていることによって登下校中の見守りになり、保護者からは「安心感がある」との感想。

4.統合するにあたってコンセプトは。どのようなメンバーで議論されたか→まち・自然・歴史と言一体化し、学ぶワクワク感が充満する出会いと成長の場。プロポーサル方式で設計。動線を熟考した上で、市民の意見を聞く。

5.新たな校舎となり、子ども達、保護者、教員からはどのような反応か、また児童の成長等にどのような影響を与えているか→1～6年生まで交流しやすい。子ども達が自由に動ける。空間の開放や発想を豊かにし、職員室はガラス張り、子ども達のおしゃべりスペースがあるなど工夫されている。

6.「さんあい広場」ではどのような交流が行われているか→高齢者の方達が集う場所。地域の人とふれあう。月1度PTA会議も行っている。

7.職員研修は→教育センターの研修担当が行っている。

8.今後の課題、展望→解放されたスペースを生かし、どこにでも行けるアクティヴな授業を目指している。

【所感】 明るい陽射しが入り、昔からある樹木も学校のシンボルとして残しており、歴史と現代がマッチしている。子どもの目線に合わせてちょっとした所

に机や椅子があり、子どもの気分に合わせて学習や遊びがはかどるよう工夫されている。壁をなくしてカーテンで仕切る、ガラス張りで他の場所が見えるようにする等空間に工夫が施されている。光を生かして自然との一体感を醸し出すデザインが光る。自由に教える形を作れる創造的な学習空間が存在していた。

行政視察報告書

日 時： 令和6年10月31日（木）

視 察 先： 姫路市役所

視察項目： 小中一貫教育について

視 察 者： 立川市議会文教委員会（瀬 順弘、永元香子、高島奈美、門倉正子）

1. 調査の目的

立川市議会文教委員会では、「地域に根ざした学校施設のあり方」を所管事務調査のテーマとし、インクルーシブ教育、小中一貫教育、学校と地域の関わり、施設複合化など、ソフト・ハードの両面で学校施設のあり方を検討するための調査を行うこととした。

姫路市では、平成27年度からの第1期教育振興基本計画（組織としての学校力の向上）、令和2年度からの第2期教育振興基本計画（異校種間連携の強化）の施策として、小中一貫教育を推進していることから、その取り組み、体制や、実施する中での課題などを調査し、立川市における今後の小中一貫教育の考え方の参考とするため視察を行った。

2. 調査概要

姫路市役所にて、姫路市教育委員会学校指導課から「姫路市の進める小中一貫教育の取組と義務教育学校について」説明いただいた。

（1）学校の現状と小中一貫教育の導入について

●姫路市の学校

○市立幼稚園	32 園	○市立小学校	66 校
○市立中学校	32 校（+私立4校）	○市立夜間中学校	1 校
○市立義務教育学校	3 校（施設一体型、施設隣接型、施設分離型が各1校）		
○市立特別支援学校	1 校（+県立3校）		
○市立高等学校	3 校（+県立13校、私立6校）		

●小中一貫教育の背景と歴史

小中学生のいじめや不登校といった問題行動件数は、中学校1年生で急増している実態があり、校種が変わり新しい環境や指導になじめない苛立ちや不安が、問題行動発生の誘因になっていると分析。また、教科等の好き嫌い調査結果でも、すべての強化で小6から中1で好きと答えた割合が減少している。

これらのことから、学校種間の接続を円滑にし、入学時の不安な心理的段差の軽減を図り、学力の向上と人間関係力の育成を目指すため、小中一貫教育を導入することとした。

平成19～20年度の準備期を経て、平成21～29年度を「小中一貫教育ファーストステージ」と位置付け、モデル実践の開始、小中一貫教育標準カリキュラム発行などに取り組み、平成23年度にはすべての中学校ブロックで実践を開始した。同年度に小中一貫教育担当者会も開始した。

平成 30 年度から令和 6 年度は「小中一貫教育セカンドステージ」とし、施設隣接型義務教育学校、施設分離型義務教育学校、施設一体型義務教育学校を順次開校し、ブランドカリキュラムの作成及び実践を推進してきた。

●姫路市の進める小中一貫教育

小中一貫教育を進めるポイントを以下の 3 点に設定。

- (1) 小中共通の教育目標・目指す子供像の設定（意図的）
- (2) 9 年間を見通した一貫した指導（計画的）
- (3) 小中教職員・保護者・地域住民による協働実践（組織的）

小中一貫教育を進めるため、市全体として、小中一貫教育推進計画の策定、小中一貫教育を推進するための予算措置（報償費、旅費、需用費、その他）、小中一貫教育担当者会の開催（全体研修、実践発表、情報交換）などに取り組んでいる。

(2) 義務教育学校について

●義務教育学校の設置に向けて

小中一貫教育では、目標のダブルスタンダードや教職員の負担増など組織の二重構造の課題があり、小中一貫教育を一層推進するため学校施設を一元化した義務教育学校の設置が検討された。

設置については方針を定め、特色と魅力のある学校の実現を目指し、取組についてもモデル的に全市発信することとした。また、すべての中学校ブロックで導入を目指すものではなく、地域の理解や児童生徒の実態などに基づいた条件を定め、平成 28～30 年に公募を実施した。

公募の結果、白鷺小中学校、四郷学院、豊富小中学校の 3 校を順次開校した。

●白鷺小中学校

隣接した小中学校を同一敷地とした施設隣接型の義務教育学校。9 年間で 4・3・2 制（前期・中期・後期）の区分に分けている。小学校では 6 年生が最高学年として活躍の場があったが、3 期に分けることでリーダーを 3 回経験できるという発想を大切にしている。

●四郷学院

施設分離型の義務教育学校。前期課程（1～6 年／旧小学校）と後期課程（7～9 年／旧中学校）が約 300m 離れている。開校前年の 11 月には小中合同の職員会議を開き、開校までの見通しなどを確認。3 月には小中それぞれの卒業式とともに、閉校式を実施した。開校式翌日に 7 年生は進級式を実施。

●豊富小中学校

施設一体型の義務教育学校。前期課程（1～6 年）と後期課程（7～9 年）を設定している。1 時間の時間が前期課程 45 分、後期課程 50 分のため、チャイムは着席完了の 8:15、1 時間目の 8:40、3 時間目の 10:40、5 時間目の 13:40 のみ鳴らしている。

(3) 質疑応答

Q. 小中連携教育と小中一貫（義務教育学校）の違いは？

A. 行事が一つになる、教員間の連携がより密になるなど、9年間を見据えた継続的な教育を行うことができる。

Q. どこの自治体でも施設の老朽化が進んでいると思うが、今後整備や統合などで義務教育学校が増えていくのか？

A. 市立高校が3校あるがこれらは統合して施設整備の予定になっている。小中学校については、施設のことや統合と義務教育学校のあり方は一緒には考えない。

Q. 義務教育学校は学力や授業態度などで変化があったのか？

A. 単純に学力ということでは評価が難しい。先生の実感としては、中学生がやさしくなったとの声が多い。小学校・中学校の先生の意識も変わり、小学校でのわかりやすく、中学校での力をつけるといった視点を互いに意識するようになった。

3. 所感

小中連携から一步深めた義務教育学校とすることで、9年間の学びの継続性、学力だけではなく人間関係の構築にも資すること、児童生徒の様子や教員の意識変革などの説明をいただき、大変参考となった。

また、平成19年度からの準備期間を経て、段階的に小中一貫教育を進めており、何をを目指すのかや、義務教育学校の設置方針などを明確にして進めていることがわかり、入念な準備が必要であると感じた。

お忙しい中、説明や質問にも快く応じていただいた姫路市教育委員会学校指導課の皆様、心より感謝申し上げます。

以上

